

「見えない価格」

— 2 稿 —

2026/6/27

米俵

〈人物表〉

下田 裕子 (52) 文具店店長

アカネ (9) 小学生

サナ (9) 小学生

かえで (9) 小学生

小学生A

小学生B

1. 下田文具店・外観（昼）

築数十年の古びた文具店。少し汚れた看板には「下田文具店」と書かれている。
入口には、「シール入荷」と書かれたポップが貼られている。古い外観からは浮いている。

2. 下田文具店・室内（昼）

T「水曜日」

商品は、シンプルなものからキャラクターものまで揃っているが、少し古びている。

下田裕子（52）、入荷したばかりのボンボンドロップシールを並べる。

裕子、レジ横の引き出しから、古いシール帳を取り出す。可愛いシールが沢山貼られている。
その中から一枚選ぶ。

シール棚の「一人一点」と書かれたメモの端に貼る。
レジに戻り、お客を待つ。

暇そうに、スマホで「下田文具店」を検索。

星は3。口コミの内容「品揃えは良い。でも、入りにくい」「店員の女の人がちょっと怖い」

裕子、店内を見渡す。

静まり返り、ガランとしている。

そこへ、アカネ（9）、サナ（9）、数人の小学生が、ランドセルを背負ったまま入ってくる。

裕子 「いらっしやいませ」

と、努めて明るく声をかける。

アカネたち、裕子には目もくれずシールコーナーへ。
裕子、表情を和らげる。

アカネ、得意げに、

アカネ 「ほら、言ったでしょ？ まだあるって」

小学生A 「わっ。これ、知らない」

小学生B 「レアじゃない？」

と、シールを触ろうとする。

アカネ 「待って。先に見るから」

サナ 「順番にしよう」

アカネ 「じゃあ、並ぶ？」

小学生が棚の前に並ぶ。

アカネ 「かえでは後ろね」

かえで（9）、言われるままに最後尾に並ぶ。

アカネが真っ先にシールを選び、レジに向かう。

続くようにサナが選ぶ。

かえで、その後ろ姿を見ている。

アカネ 「すみません。これ全部、違うんですけどいいですか」

と、数枚のシールを見せる。それぞれ絵柄が違う。

裕子 「ごめんね。これは一人一点まで……」

と、困ったように笑顔を作る。

アカネ、シールを胸元に寄せる。

アカネ 「でも、他のお店にはもうなくて。来られなかった友達にも分けたいので」

同意を得るようにサナに目くばせする。

サナ、一瞬迷って頷く。

裕子、少し悩んで、

裕子 「それなら……」

サナ 「やった」

アカネ、サナの袖を引き、制する。

アカネ 「ありがとうございます。じゃあ、みんなもいいですよ
ね？」

裕子 「え？」

裕子、シール棚へ目を向ける。

小学生たち、期待した表情で裕子を見る。

裕子 「特別……ね」

喜ぶ小学生たち。

裕子もつられて少し笑顔になる。

かえでだけ、不安そうに裕子を見る。

裕子、それには気付かず、会計を始める。

裕子 「みんなで交換とかしてるの？」

サナが後ろから、

サナ 「シール帳三冊目！」

と、ランドセルから取り出そうとする。

アカネ 「やめなって」

サナ、動作を止め、アカネの表情を伺うように見る。

アカネ、サナを一瞥してから、

アカネ 「次はいつ入りますか？」

裕子 「多分、金曜日かな……入荷が遅れるみたいで」

アカネ 「金曜日行ける？」

サナ、頷く。

アカネ 「じゃあ決まり」

裕子 「ありがとね」

と、シールを渡す。

アカネとサナ、出口へ。

小学生たちも会計を済ませそれに続く。

アカネ、かえでに声をかける。

アカネ 「かえで、まだ選んでんの？ 先行くからね」

かえで 「ちよっと待って」

と、急いで一枚だけ取り、アカネ達の方を見る。

アカネ達、無視して走っていく。

かえで、手元のシールを見つめる。

ゆっくりとそれを棚に戻す。

裕子、かえでに近付いて、

裕子 「いいの？」

かえで、驚いて裕子を見る。

裕子、笑顔を向ける。

裕子 「悩んじゃった？」

かえで、黙っている。

しばらくして、

かえで 「……みんな持つてるから」

裕子、少し考える。

かえで 「交換してもらえない」

裕子 「……難しいね」

裕子、レジの引き出しの方に視線を向ける。

かえで 「すみません」

と、お辞儀して、店を出て行くようにする。

裕子 「私で良ければ、交換する？ 古いシールだけど」

かえで、立ち止まり、裕子の方を見る。

裕子、急いでレジ裏からシール帳を持ってくる。

裕子 「これ」

かえで 「かわいい」

裕子 「いいよ、好きに見て」

かえで、嬉しそうに見ていく。

裕子 「交換したいのあったら言ってね」

かえで 「……これでも大丈夫ですか？」

かえで、急いでランドセルからシール帳を取り出す。

流行りでないシールが並んでいる。

裕子 「どれも可愛いね」

かえで 「本当に？ このシールでいい？」

裕子 「もちろん。どれがいいかなー」

かえで、嬉しそうな笑顔。

裕子のシール帳を一生懸命眺める。

裕子、その様子を見る。

かえで 「これがいい」

と一枚のシールを指さす。

裕子 「いいの選んだね。私は……これがいいな」

かえで 「じゃあ、交換ね」

2人、シールを交換する。

かえで、交換したシールを眺めて嬉しそうにする。

かえで 「また来ていい？」

裕子 「待ってるね」

かえで、店を出る。

裕子、手を振る。

3. 下田文具店・室内（夕）

T「木曜日」

裕子、レジ付近で作業。近くにはシール帳。

外から、子どもたちの声。

裕子、顔をあげる。

誰も来ない。

静かな店内。

4. 公園(夕)

小学生たちが集まっている。

かえで、シール帳を開いている。

小学生A 「なにこれ！」

小学生B 「かわいいー」

かえで、嬉しそうにする。

サナ 「アカネちゃん、見て」

と、別の子と話していたアカネを呼ぶ。

アカネ、かえでのシール帳を見て、

アカネ 「どうしたの、これ」

かえで 「……お店のおばさんと交換して」

アカネ、一瞬黙る。

サナ 「かえでちゃんだけ？」

アカネ、シール帳を開く。

大きなぶくぶくしたシールを剥がして、

アカネ 「ねえ、これと交換しよ？」

サナ 「アカネちゃん、それいいの？」

アカネ 「かえでのが可愛いから」

かえで 「でも、昨日交換したばかりで……」

アカネ 「じゃあ、大切にする。ね、お願い」

かえで、自分のシールを見る。

アカネの差し出したシールを見る。

周りの小学生たちが見ている。

かえで 「……大切にしてくね」

と、ゆっくりと渡す。

アカネ 「うちら初交換だね」

と、笑顔を向ける。

かえでもつられて笑う。

5. 下田文具店・室内(昼)

T 「金曜日」

裕子、在庫確認をしている。

アカネ、サナ、かえでを含む数人の小学生が勢いよく入ってくる。そのままシールコーナーへ。

裕子、顔をあげ、子どもたちを確認。

柵の影になり、子どもたちからは見えない。

自然と整列する小学生。

アカネ、かえでの手を引っ張り、

アカネ 「かえで、こっち」

と、サナの後ろへ誘導する。

驚きつつも嬉しそうなかえで。

アカネとサナ、シールを選びながら、

サナ 「ねえ、あれは？」

アカネ 「昨日、かえでと交換したやつ？」

アカネ、かえでと目を合わせる。

かえで、嬉しそうにする。

サナ 「そう」

アカネ 「あやが欲しいっていうから」

サナ 「えっ、あげたの？」

アカネ 「あげたっていうか……五百円で売った」

と、Vサイン。

サナ 「高っ」

アカネ 「でしょ？ かえで神！」

裕子、作業の手が止まる。

かえで、驚いた表情。

ランドセルの肩ひもを強く握る。

かえで、アカネに一步近付いて、

かえで 「なんで……」

アカネ 「なに？」

かえで 「大切にするって……」

アカネ 「もう私のだったし」

かえで、黙る。

アカネ 「交換オツケーしたのはかえでだよ？ ね？」

サナ、小さく頷く。

アカネ、数種類を持ってレジへ。サナも続く。

アカネ、当然のようにレジに出す。

裕子 「ごめんね。一人一点までだから」

アカネ 「友達に頼まれてるので。今回もいいですか？」

裕子 「ルールだから」

アカネ 「は？」

裕子、無表情でアカネを見る。

アカネ 「(小声で)マジケチ」

アカネ、サナにこそこそと話す。

サナ、驚いた表情。

アカネ、強引にサナのシールを奪って、

アカネ 「やめます」

と、商品をレジ台の上に置く。

アカネ 「かえで、行くよ」

シールコーナーにいるかえでに声をかけ、出ていく。

かえで、レジにいる裕子を見る。

裕子もかえでを見る。

かえで、すぐに目を伏せる。

アカネの声 「かえで！」

かえで、アカネ達の方へ走っていく。

裕子、レジ台に置かれたシールに視線を落とす。

シールを棚へ戻す。

6. 下田文具店・外(昼)

裕子、「シール入荷」のポップを見つめている。

エプロンのポケットから赤いマジックを取り出す。

「一人一点まで」と書き加える。

少し離れて見る。

赤い文字がやけに目立つ。

しばらく見つめる。

ポップを剥がす。

裕子、店内に戻る。

下田文具店の外観。

しばらくして、自動扉が開く音。

(おわり)